HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「楡蔭」
Citation	, 16, 1[121]-8[138]
Issue Date	1970-01-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/66822
Type	periodical
Note	Vol.4 No.1
File Information	yuin16.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学附属図書館報

橋

The Hokkaido University Library Bulletin　Vol. 4, No. 1.　Jan. 1970

新　春　展　望

附属図書館長　今　村　成　和

昭和45年は，附属図書館にとって，幾度目かの，新しい幕開けの年となるだろう。その用意は，昨年中の，明暗二つの出来事によって整えられた。

その一つは，附属図書館の封鎖である。7月上旬から11月の上旬に至るほぼ4カ月の間，図書館の機能の大部分は，一時停止のやむ無きに至り，利用者各位には多大の迷惑をおかけした。その間ほとんど為す術もなく過してしまったことは，館長として誠に申し訳なく，ここに一言お詫びの言葉を申し述べておき度い。

封鎖解除後，再封鎖をおそれる声もあったが，全学教職員学生のためにある図書館本来の使命に徹することが，われわれのとるべき最善の途であると考え，館員一同，早期開館のために全力を傾けた。内部設備には少なからぬ被害があったが，幸いに図書資料やカードは無事であったので，最少限度の復旧整備を終えた後，12月8日には，とりあえず再開の一歩を踏み出すことができたのである。

その第二は，教養分館の開館である。昭和38年に，教養部校舎がキャンパスの北方に移転して以来，附属図書館との間が遠く離れすぎ，分館の設置が強く望まれていたが，昨年度の予算でこれが認められ，4月には早くも着工の運びとなるに至った。その後隣接校舎が封鎖中という悪条件下にも拘らず，建築工事は順調に進捗し，12月22日には開館式を挙行することができたのである。

新春を迎えた附属図書館の現況は上記の通りである。このように，昨年暮には一時的な障害も解消し，年来の宿望も達成された。これを契機として，附属図書館は，新しい建設に乗り出さなくてはならない。

附属図書館に関しては，金銭的損失は大きく，その復旧のために，全学的な協力を得ることになったとはいえ，館内の諸設備については，ここしばらくの間，もとの姿に戻るのが精一杯というのは，まことに残念なことである。

しかし，図書館の運営や管理の面では，われわれは，この機会を，飛躍的な改善のためのステップとして生かしたいと思う。ここ数年来われわれはこの問題に取り組んで来たが，外的な事情がこれを一頓座させた。われわれは今再出発をはかろうとしているが，それは，初心に立ち返り，新たな勇気を振い起すための絶好の機会でなければならないのである。

教養分館の開館は，そのためにも，われわれに新たな展望を与えるものである。しかも，教養部の改革は，今や全学の世論である。われわれは，その中で，新装成った教養分館の機能が正当に位置づけられることを，深く期待している。この意味では，分館は開館されたが，まだ何事も始まっていないといってよい。われわれは，ここにも，本年の大きな課題を見出すことができるのである。

附属図書館教養分館の開館に際して

附属図書館教養分館長　阿　部　保

この度教養分館の開館をとどこおりなく迎えるにいたったことは，ご同慶に堪えない。これひとえに全学の関係の皆様の御尽力によるところであって，感謝と敬意を捧げるものである。

教養分館は，教養部の要望に応えて，学習図書館として計画されたものであるが，昭和44年の4月1日付で設置され，建物は11月に落成した。このきびしい時局にもかかわらず，端麗な新しい図書館の誕生を見ることの出来たことは，まことに幸運であったと，しみじみと感ずるのである。図書館が学生にとって，学習の場としていかに重要なものであるかは，ここに述べるまでもないことである。昨年の春，日米大学図書館会議に出席した際にも，欧米において図書館が研究のセンターとして極めて重要視されていることを学んだのである。私は教養部の学生が，読書によって，学問に対する真の熱情をよび起こされることを期待するものである。現在教養分館は蔵書72,000冊，座席600席である。教養分館の職員の数，蔵書など，まだ不備な点も多いのである。更にその整備，充実につとめ，この学園より多くの俊才の育つようにお役に立ちたいと願っている。

もう一つつけ加えたいことは図書館の近代化と環境の整備と言うことである。図書館の前に芝生や花壇を作り，木蔭で読書が出来るようにしたいと，楽しい夢を館員とともに描いている。

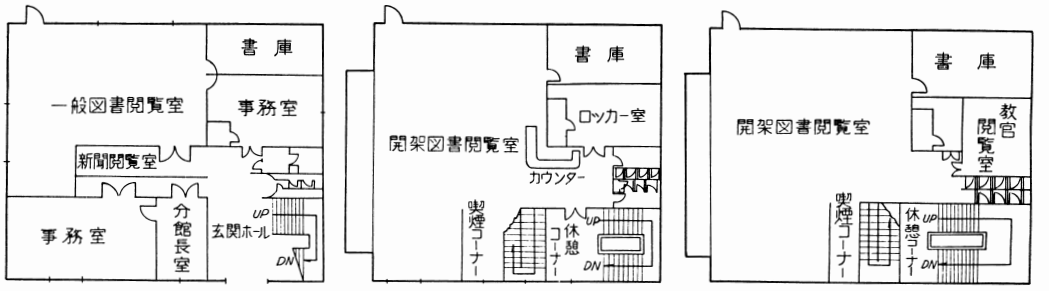
教養分館は大きなヴィジョンをもって，新しい春を迎えようとしているのである。

附属図書館教養分館の設置について

昨年4月1日付をもって設置された教養分館の新営建物が11月14日に竣工，12月15日から開館した。

この教養分館設置については，従前，教養部学生が学習参考書等の閲覧を全面的に本館に依存していたところ，教養部が現在地に移転してからは，学生が日常的に本館を利用することが困難となり，とりあえず，教養部建物の一部を割いて閲覧室等を設け利用に供していたが，すべての面で限界に達したため，全学の協力を得て学習図書館の設置を文部省に要望，このほど教養分館の設置が認められたものである。

教養分館の概要は次のとおり



1　階　　2　階　　3　階

1. 施　　設

総面積　2.406.11 m²

一般図書閲覧室	(1階)	246.6 m²	152席
新聞閲覧室	(1階)	72 m²	
開架図書閲覧室	(2階)	423.9 m²	112席
〃	(3階)	423.9 m²	296席
教官閲覧室	(3階)	52.6 m²	13席
書庫	(5層)	346.5 m²	

その他分館長室，整理事務室，閲覧事務室等

2. 蔵 書 数

約72,000冊（うち35,053冊は開架図書）

3. 利　　用

開館日31日（昭和44年12月15日から45年1月31日まで）

入館者数		11,727名
館内閲覧	人数	2,011人
	冊数	3,502冊（うち133冊は，教官指定図書）
館外閲覧	人数	1,543人
	冊数	2,605冊

4. 職　　員

分館長以下9名

◆ 会　　議

第40回　図書館委員会

<とき　昭和44年6月25日（水）>

<ところ　附属図書館会議室>

1. 第2種閲覧個室（利用期間7月1日から9月30日まで）利用者の選考が行なわれた。
2. 北海道大学附属図書館閲覧規程の一部改正について，その改正案が了承された。
3. 昭和44年度附属図書館および教養分館運営費の配当が了承された。
4. 第1回日米大学図書館会議の報告があった。
5. 昭和44年度国立大学図書館協議会総会の報告があった。

第41回　図書館委員会

<とき　昭和44年7月23日（水）>

<ところ　附属図書館仮事務室（旧教育学部）>

1. 附属図書館封鎖に伴う経過報告があった。

第42回　図書館委員会

<とき　昭和44年9月18日（木）>

<ところ　薬学部会議室>

1. 教養分館閲覧内規（案）が了承された。

第43回　図書館委員会

<とき　昭和44年11月28日（金）>

<ところ　附属図書館会議室>

1. 附属図書館の開館について

館長から，封鎖解除に伴い建物等の整備と必要最少限の物品等を取りそろえ，12月8日から開館した

い旨説明了承された。

2. 教養分館の開館について

始めに館長から，教養分館の建物はさる11月14日に引き渡しを受けた旨報告があり，続いて北村教養分館長代理から，教養分館委員会では，12月中旬から開館したい旨決定したと説明があり了認された。

第3回 教養分館委員会

<と き 昭和44年6月13日(金)>

<ところ 教養部応接室>

1. 教養分館閲覧内規について

北海道大学附属図書館閲覧規程の特則として，内規を定める旨の検討がされた。

第4回 教養分館委員会

<と き 昭和44年7月30日(木)>

<ところ 附属図書館仮事務室(旧教育学部)>

1. 教養部封鎖に関する経過報告があった。
2. 教養分館閲覧内規(案)について，各項目毎の検討がおこなわれた。

第5回 教養分館委員会

<と き 昭和44年9月5日(金)>

<ところ 附属図書館仮事務室(旧教育学部)>

1. 事務主任の交代について

新事務主任(附属図書館閲覧課長補佐)の紹介があった。

2. 教養分館の開館時期について

教養部の封鎖がこのまま続いた場合，現在の状況からして11月開館は無理と思われるが，開館はその時点の状勢を検討して考慮することとなった。

第6回 教養分館委員会

<と き 昭和44年10月17日(金)>

<ところ 附属図書館仮事務室(旧臨床研究棟)>

1. 教養分館の開館時期について

開館にあたっては教養部の意向を尊重しておこないたいとの館長の意向に基づき，分館長と教養部長，教養部事務長との話し合いを行なった結果，「教養部としては1日も早く開館を希望している」旨の報告があった。

教養分館委員会としては，「年度内にできるだけ早く開館する事を希望する」旨の確認がされた。

第7回 教養分館委員会

<と き 昭和44年11月24日(月)>

<ところ 教養分館長室>

1. 教養分館建築の経過(11月14日竣工検査完了，引き渡しを受けた。)および図書，物品の移転完了についての報告があった。
2. 教養分館開館時期について

12月中旬開館予定とした。

3. 封鎖問題について

附属図書館と同一歩調をとる事が確認された。

全学図書(担当)掛長会議

<と き 昭和44年7月29日(火)>

<ところ 薬学部会議室>

1. 封鎖に伴う図書業務遂行についての打ち合わせが行なわれた。

第43次（昭和44年度）国立七大学附属図書館協議会の開催について

標記協議会は名古屋大学の当番館で，昭和44年 9 月24日から26日までの3日間，名古屋共済会館で開催された。同協議会では，新しい大学像のもとにおける図書館のあり方，これからの大学図書館運営の態勢について等が協議された。

昭和44年度道地区大学図書館協議会の開催について

標記協議会は室蘭工業大学の当番館で，昭和44年10月24日，室蘭工業大学で開催された。同協議会では，相互協力について，図書館におけるP.R活動について等が協議された。

なお，昭和44年度道地区大学図書館職員研究集会は北海学園大学の当番館で開催予定であったが，諸般の事情により延期となった。

資料紹介

大学問題，学生問題に関する図書を収集

—— 附属図書館 ——

附属図書館では学内の教職員・学生に最近の大学問題・学生運動を深く考察するための参考資料を提供すべく，昨年よりこれらの問題に関する図書を収集しています。これまでに受入れた分は下記の通りですが，なおこのほかに発注済のものがかなりあります。これらの図書はその多くが2階開架図書閲覧室に備えてありますのでご利用下さい。大体の分類は大学問題378，学生運動371.8です。

配列は著編者のABC順。㊟は重版。

大　学　問　題

私の大学再建案（会田雄次他）　新　潮　社　昭44
大学の庭　上・下（朝日ジャーナル編集部）　弘　文　堂　昭42
科学革命と大学（エリック・アシュビー著　島田雄次郎訳）　中央公論社　昭42
人間の教育　—学生の住む国—（福原麟太郎）　講　談　社　昭40
大学変革　—その闘いの理念—　戦後，北大変革の課題と展望（北大大学院生協議会討論資料編集委員会）「大学変革」討論資料編集委　昭44
大学問題資料集（北海道大学教育学部院生協議会）　昭44
世界の大学問題　第1集（IDE 大学教育研究会）　東大出版会　昭44
大学の自由の歴史（家永三郎）　塙　書　房　昭37
大学の自治の歴史（伊ケ崎暁生）　新日本出版社　昭40
大学生・教授の生態　—現代大学生かたぎと教授の生態—（池井望・西川富雄）雄　渾　社　昭42
「七学部代表団との確認書」の解説（加藤一郎）　東大出版会　昭44
大学の効用（クラーク・カー著　茅誠司監訳）　東大出版会　昭41
大学管理問題に関する資料集（国立国会図書館調査立法考査局）　昭38
大学問題と学生運動（高坂正顕）　南　窓　社　昭44 ㊟
レポート　揺れる京大　—紛争の序章—（京大問題記録編纂会）現代数学社　昭44
大学・大学教育・大学生（峯村光郎）　慶応通信社　昭42
わが国の高等教育　—戦後における高等教育の歩み—（文部省）　昭39

教育の森 (8) 大学は揺れる (村松喬) 毎日新聞社 昭42
ドキュメント 東大紛争 (内藤国夫) 文芸春秋社 昭44
日大紛争の真相 (日本大学新聞研究会) 八千代出版 昭44
海外大学教育総合調査団報告書 (大泉孝・松坂佐一編) 民主教育協会 昭39
日本の大学 (大河内一男 他) 東大出版会 昭43
私の大学論 (大河内一男) 東大出版会 昭43
日本の私立大学 —私学教育の危機と大学経営の課題— (大沢勝) 青木書店 昭43
大学の起源 —ヨーロッパ中世大学史— 上・下 (H・ラシュドール著 横尾壮英訳) 東洋館出版社 昭44 ㊟
大学教育論 (デーヴィッド・リースマン著 新堀・片岡訳) みすず書房 昭36
大学革命 (D・リースマン, C・ジェンクス著 国弘正雄訳) サイマル出版会 昭44
The academic revolution. (D. Riesman & C. Jencks) Doubleday, 1968
大学教育の理念 —アメリカ高等教育概観— (F.M. ロジャース著 斎藤正二訳) 緑地社 昭33
嵐のなかの百年 —学問弾圧小史— (向坂逸郎他) 頸草書房 昭38 ㊟
College curriculum and student protest. (J. J. Schwab) Univ. of Chicago Press. 1969
東大に灯をつけろ —学閥・官僚・アカデミズム— (関根弘) 内田老鶴圃 昭36
ヨーロッパ大学史研究 (島田雄次郎) 未来社 昭42
学閥 —この日本的なるもの— (新堀通也) 福村出版 昭44
日本の大学教授市場 —学閥の研究— (新堀通也) 東洋館出版社 昭40
大学問題文献年表 1966年1月—1969年3月 (思想の科学 昭和44年6月臨時増刊号 p. 94-127)
大学制度の研究 (皇至道) 柳原書店 昭30
私はこう考える —東大闘争教官の発言— (田畑書店編集部) 田畑書店 昭44
わたくしの大学批判 (滝川幸辰) 民主教育協会 昭35
東大紛争の記録 (東京大学新聞研究所 東大紛争文書研究会) 日本評論社 昭44
東大変革への闘い (東京大学全学院生協議会, 東大闘争記録刊行委) 労働旬報社 昭44
これからの大学院 (ウォルターズ編 本田宏監訳) 東大出版会 昭44
アメリカの大学十八講 (ウィルソン・メレジス等著 沖原等訳) 原書房 昭42
大学について (矢内原忠雄) 東大出版会 昭37 ㊟

学生問題

全学連は何を考えるか (秋山勝行・青木忠) 自由国民社 昭33
学生革命 —五月革命の思想と行動— (ダニエル・コーンバンディ等著 海老坂武訳) 人文書院 昭43
学生の反乱 (ルディ・ドウチュケ等著 船戸満之訳) 合同出版 昭43
装甲車と青春 —全学連学生の手記— (現代思潮社編集部) 現代思潮社 昭43 ㊟
現代日本の学生運動 (広谷俊二) 青木書店 昭44 ㊟
ゼンガクレン —革命に賭ける青春— (猪野健治) 双葉社 昭43
全学連 —その意識と行動— (時事問題研究所) 時事問題研究所 昭43
人知れずこそ微笑まん (樺美智子) 三一書房 昭44 ㊟
学生の歴史 —学生生活の社会史的考察— (唐沢富太郎) 創文社 昭43 ㊟

学生と政治 (S.M. リプセット編　内山・大久保訳) 未　来　社　昭44
Student power. (J. Nagel ed.) Merlin Press, 1968
基督者学生運動史 —昭和初期の SCM の闘い— (中原賢次) 日本 YMCA 同盟出版部　昭37
全　学　連 —70年安保と学生運動— (中島誠編) 三 一 書 房　昭44
全学連の正体 (日刊労働通信社) 昭43
学生運動の研究 (日本学生運動研究会) 日刊労働通信社　昭41
嵐の中に育つわれら (日本民主青年同盟東大全学委員会) 日本青年出版社　昭44
自由をわれらに —全学連学生の手記— (ノーベル書房編集部) ノーベル書房　昭44
青春の墓標 —ある学生活動家の愛と死— (奥浩平) 文芸春秋社　昭40
全　学　連 —その行動と理論— (大野明男) 講　談　社　昭44
全学連血風録 (大野明男) 20世紀社　昭42
デモに渦巻く青春 (大野力) 番 町 書 房　昭44 ㊐
第三の世代 —現代の学生像— (尾崎盛光) 法律文化社　昭35
世界の学生運動 (小沢有作) 青 木 書 店　昭43
5 月 革 命 (3月22日運動著　西川一郎訳) 合 同 出 版　昭43
資料戦後学生運動 1～3 (三一書房編集部) 三 一 書 房　昭43-44
学 生 運 動 —大学の改革か社会の変革か— (鈴木博雄) 福 村 出 版　昭44
叛逆するスチューデント・パワー (高橋徹) 講 談 社　昭43
果しなき進撃 —東大闘争反撃宣言— (東大全共闘) 三 一 書 房　昭44
東大全共闘 (東京大学全学助手共闘会議) 三 一 書 房　昭44
大　学　生 —この考える葦— (臼井吉見・河盛好蔵) 潮　文　社　昭41 ㊐
戦後学生運動史 (山中明) 青 木 書 店　昭44 ㊐
駒場の学生たち (山下肇) 有　信　堂　昭43

◆ 訃　　報

水産学部図書掛長，山田泰一氏

昭和22年4月21日，函館水産専門学校の事務嘱託（図書館図書掛長）となり，22年余勤務に精励されておりましたが，去る昭和45年1月31日，急性心不全のため逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

◆ 人 事 往 来

新図書館委員紹介

星　野　　洸 教授 (歯 学 部) 昭和44年12月 1 日付
伊 藤 真 次 教授 (医 学 部) 昭和45年 1 月 1 日付
元　田　　茂 教授 (水産学部) 昭和45年 1 月 1 日付

―― 編集後記 ――

昨年5月，3巻3号を刊行してから一時中断を余儀無くされた館報を，今回再び発行することができたことは，編集者一同にとって非常に喜ばしいことである。

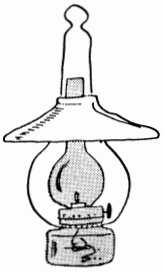
思えば昨年6月以来学内の数部局が封鎖されたことに伴い，図書系業務も多大の影響を受けたのであるが，その後関係各位の努力と全学の理解ある協力のもとに，図書系業務もようやく動きはじめてきた。ここにその経過の概略を報告し，併せて封鎖関係部局の現状をお知らせします。

6月28日教養部が占拠され，続いて7月10日に附属図書館，8月17日に人文系四学部が封鎖された。この間，図書系業務は学内の他部局の建物を借用し，主に発注受入業務を行なってきた。学外からの資料照会，複写等については封鎖を受けない部局の協力のもとに，ほぼ平常どおり行なった。

その後，11月8日，学内に機動隊が導入され封鎖が解除されたので，ただちに復旧にとりかかった。封鎖に伴う図書系の被害は，人文系四学部では資料等に若干被害を受けたものがあり，附属図書館では閲覧机，ロッカー，カード箱等相当数が損傷した。教養部では11月8日の封鎖解除後，12月10日に再封鎖されたが，この間，図書資料等はほとんど新館(教養分館)に移したので被害は軽微であった。

封鎖解除後約1ヵ月を経た12月8日には附属図書館が部分的に閲覧業務を再開，2月2日からは閲覧個室関係等を除き全面的に復旧する予定である。人文系四学部の図書系業務も着々復旧に向っている。

巻頭の館長辞にもある如く，私達も新しい図書館の建設に邁進したいと意を新たにした次第である。



北海道大学附属図書館報 「楡蔭」 Vol. 4, No. 1 (通巻16号)
1970年1月31日 発行 発行人 斉 木 一 郎
発 行 所 北海道大学附属図書館 札幌市北8条西5丁目 電話代表 71-2111 (2966)
印 刷 所 文 栄 堂 印 刷 所 札幌市北3条東7丁目 電話 23-5560